



國吉 礼乃(ソプラノ)



沓澤 玲奈(ピアノ)



吉川 歌穂(ソプラノ)



三宅 麻由(ピアノ)



常世田 美里
(サクソフォーン)



細田 千花(ピアノ)



岩田 悠理(ピアノ)



入江 晴美(チェロ)

♪ 新人演奏会出演者の声
○今回、東京音楽大学校友会千葉県支部の新人演奏会に出演させていただきました。貴重な演奏活動の場を広げることができたことを、とても嬉しく感じています。
大学を卒業してしばらく経ちましたが、在学時に比べて音楽に触れる機会が減っていたので、この演奏会はとても楽しく充実した時間を過ごすことができました。今回の経験を活かし、今後の演奏活動に繋げていきます。ありがとうございました。 岩田 悠理

○今回新人演奏会に参加させていただき、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。この三月に東京音楽大学を卒業し、四月から新生活が始まりました。日々の忙しさの中でも、音楽を続けていくことで、更に音楽を愛好する気持ちが強くなったと感じています。今回の演奏会に参加し、出演者の方の演奏を聴き、よりその思いが増しました。これからも音楽を学び続け、生涯にわたって研鑽していきたいと思っています。 國吉 礼乃

○大学を卒業して四ヶ月。学生としてではなく迎える本番はまだ数回ほどです。このような形で地元の皆さまと音楽を共有できたことを嬉しく思います。
今回選出した曲は前からいつか弾きたいと思っていました。クラナドス作曲「組曲「ゴイエスカス」より第一番です。オペラより引用されたモチーフが奏でられ、愛をテーマにした情緒的な曲で観客を魅了してきました。これからの経験を活かし、音楽で色々な方とつながってみたいです。 三宅 麻由

○本日はこのような場を設けていただきありがとうございます。仕事をしながら音楽を続けることは容易でなく、準備不足を痛感しながら臨んだ本番でした。しかし私の拙い演奏に温かい拍手を頂けたときは、何事にも代え難いほど幸せで、これからもピアノを弾き続けていきたいと思えた瞬間でした。
裏で優しく見守って下さった役員の方々、卒業後も仲良くしてくれてる友人たち、ご指導してくださる先生方、そしてお忙しい中演奏会に足を運んで下さった皆さまに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。 細田 千花

○東京音楽大学校友会千葉県支部に参加させていただき、ありがとうございました。久しぶりの地元でのソロの演奏、とても楽しみにしておりました。ましてや、京葉銀行文化プラザでの演奏が六年ぶりくらいだったので、とても懐かしく思いました。まだまだ勉強中の身ですが、皆さまの応援に感謝しつつ、またそれに応えられるよう努力し続けたいと思います。本日はありがとうございました。 入江 晴美

○この度は貴重な演奏機会をいただきありがとうございます。このホールは高校生の頃にコーラスアンサンブルのコンクールで使用した思い出のあるホールです。独唱で戻ってこられたことを嬉しく思います。
大学を卒業してからはオペラの舞台に出演し音楽の勉強を続けています。多くの方で演奏するとはまた違う楽しさを独唱で感じました。今回歌わせていただきました安房おべら「海女の花」より、「私は安房の海女様の娘、白く輝く海女になる」は、南房総市白浜を舞台に作られたオペラの Aria です。毎年門下合宿で白浜へ行き演奏しています。これからも千葉での演奏をする機会をつくり、音楽で恩返しをしていきたいです。 吉川 歌穂

東京音楽大学第一回入学生
狩野秀雄氏にお話を伺いました。

【当時の大学の校舎や大学周辺の様子】
雑司ヶ谷霊園、鬼子母神から池袋駅近くまで続く広大な寺院、墓地公園の一角にある建物群。

時代の流れを読めずに取り残された東洋音楽学校・東洋音楽短期大学の姿です。文化的側面の見える風景でした。

四年制大学誕生の校舎、第一回入学生を迎える建物としては「さむぎむ」とした風景でした。過去の栄光にとらわれず、変革・進取の気風を忘れず、世界を見る。この視点を欠いた結果としての風景でしょう。私は墓地公園を通学路にしてみました。駅までの近道で四季折々、景色の変化がありました。池袋駅には西武デパート、丸物デパート、東武デパート、三越デパートがあり、背後の宗教関係施設との対比が異色でした。墓地公園を抜けたら巨大なデパート群。大量消費、大衆文化のシンボル、デパートの群立！！

学校の周辺には、少しですが、畑がありました。

【思い出される大学の先生】

先生方は若手が主流でした。学生との年齢差が近く、親密なよい関係でした。私たち一回生は少数で、大きな教室一つで間に合いましたので、学生間も良好でした。若手気鋭の先

生方からは多くの事を吸収いたしました。談笑と共に。この中から名を成した方が多数いらっしゃいました。

夏季合宿は思い出です。ルネサンス音楽研究と社会学研究のサークルです。前者は伊東温泉・祇園(同期生、守谷弘氏の自宅)での研修。保科洋先生の指導でアカペラ訓練。温泉・美食・海水浴・談笑。後者は八王子セミナーハウスでの研修。加藤諦三先生指導。専門に偏り気味の私たちにはバランスを取る視点からもよい企画であったと思います。早稲田大学の学生も参加して、大盛況でした。本学女子は、生き生きして大いに意見を述べていました。女子には別の意図があったかもしれません(？)二泊三日脳みそがギブアップするほど討論しました。先生方は気鋭の若手集団でしたので、一期生の私たちはこの方々に囲まれ、幸せな日々を過ごしていたと思います。

【レッスンの思い出】

佐々木行綱氏。この方を求めて、私は本学を選びました。これが全てです。

二期会最年少の理事。純粹のパス。日本の創作オペラ運動に取り組み、レコード芸術誌の執筆陣の一人。シュワルツコップ、タニアビーニを日本で売り出したのは先生でした。先生のパスは莊重で厳肅で、心身の引き締まる思いでした。丹羽正明先生の助勢により門下生として許可をいただきました。師匠が受け継いだ

様々を弟子に継承する真剣勝負の場、これがレッスンだと思っています。私の場合、時間は六十分が基本でした。内容は歌曲三曲(暗譜)、コンコーネ二曲、ソルフェージュ。師匠は「ソウデス」「チガイマス」の二語を発します。レッスン後はその二語を「なぜ、どうして」と思いを巡らしレッスンノートに記録しました。レッスンノートの第二のレッスンと名付けて大切な宝物でした。自分で考え、試行し、実力をつけてゆく方法を身に着ける鍛え方の一つの方法だと理解しました。私はレッスン開始三十分前に待機しました。レッスンの恐怖に備える心の用意です。

ピアノ科教授、篠塚雅子先生にピアノ専攻生のレッスン拝見させていただきました。日頃、和服姿の穏やかな貴婦人の印象とは別人の姿を見ました。鬼か夜叉か。レッスン室の緊迫。腕の一本、指の数本、へし折り、引きちぎる如くの気迫でした。弟子を思う切迫の音楽作りの現場を体感。感銘一入でした。私を担当して下さったお二人の師に感謝しています。

二〇一九年四月
開校予定！《中目黒・代官山新キャンパス》
コンセプトは「まちと協奏する緑の中の音楽大学」開校が楽しみです
ですね！

